

熊野町における 臨時災害放送局の運用と課題

広島県安芸郡熊野町 地域振興課(危機管理課兼務) 主査 石田 裕

熊野町の概要

- 地勢：広島県の西部、広島市の東に位置する。四方を山に囲まれた盆地。
- 人口：約24,000人
- 特産品：伝統的工芸品「熊野筆」のほか、化粧筆、画筆



平成30年7月豪雨災害について

発生状況：平成30年7月6日（金）夕刻から、西日本を襲った豪雨により熊野町内の各地で同時多発的に土砂災害が発生。近隣市町へのアクセス道がすべて通行不能となる。

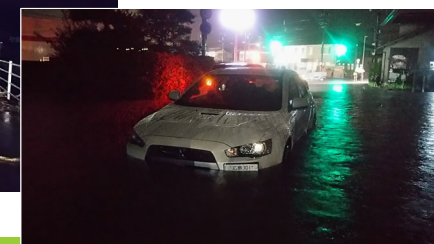
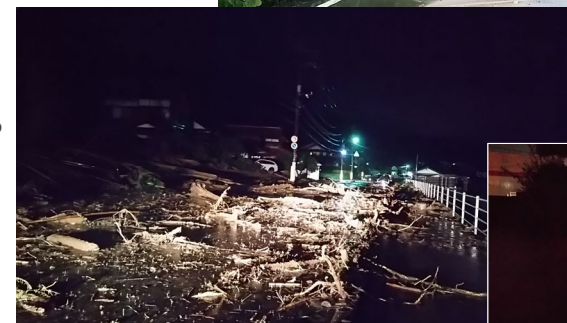
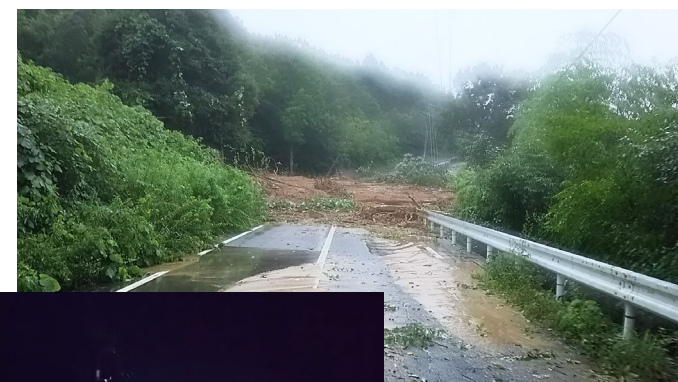
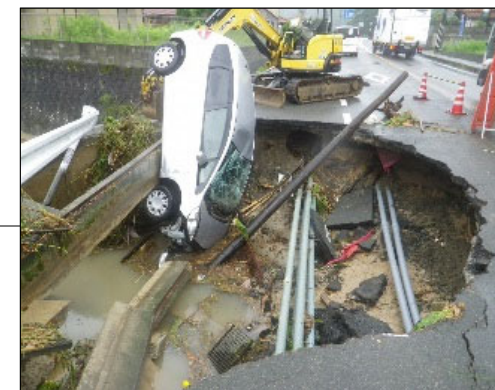
■広島市方面：広島熊野トンネル、矢野峠・・・**通行不能**

■東広島方面：黒瀬方面への峠道、八本松方面・・・**通行不能**

■呉市方面：焼山峠、黒瀬方面・・・**通行不能**

実質的に「**陸の孤島**」となる。

全10か所の避難所設置。最大1300人近い方が避難。
(移動途中で熊野町から出られなくなった方を含む。)



被害状況

- 人的被害: 死者12人 / 重傷6人 / 軽傷1人
- 建物被害: 全壊27戸 大規模半壊9戸など



平成30年は熊野町制施行100周年であったが、
町の歴史上、かつてない災害に見舞われた年となった。

臨時災害放送局(立ち上げ経緯)

- 災害対応の長期化
- 避難生活の長期化

→避難者を含む町民から
「情報が少ない」
「町がやろうとしていることがわからない」
といった苦情が多数。



広く・簡易な方法で町民が情報を入手できる手段として「ラジオ」による情報発信を選択。



臨時災害放送局「くまのちょうさいがいえフエム」

- 7/12 中国総合通信局から「臨時災害放送局」について提案、同日機器搬入。
開局に向けた設置。
7/13 中国総合通信局、FM ちゅーぴー、町で調整会議。放送機器電源ON。
7/14 放送開始(15:00)

- コールサイン: JOYZ8MB-FM
- 使用周波数: 77.3MHz

【放送回数】 放送回数: 234回

- 1 2018.7.14~8.31(※休日なし) 1日4回 9:00、12:00、15:00、18:00
- 2 2018.9.1~9.7(※休日なし) 1日2回 9:00、16:00
- 3 2018.9.8~9.28(土・日・祝日は放送休止。) 1日2回 9:00、16:00
※1回の放送は30分程度(音声放送以外の時間は音楽を提供)

【放送体制】

町職員8人による当番制

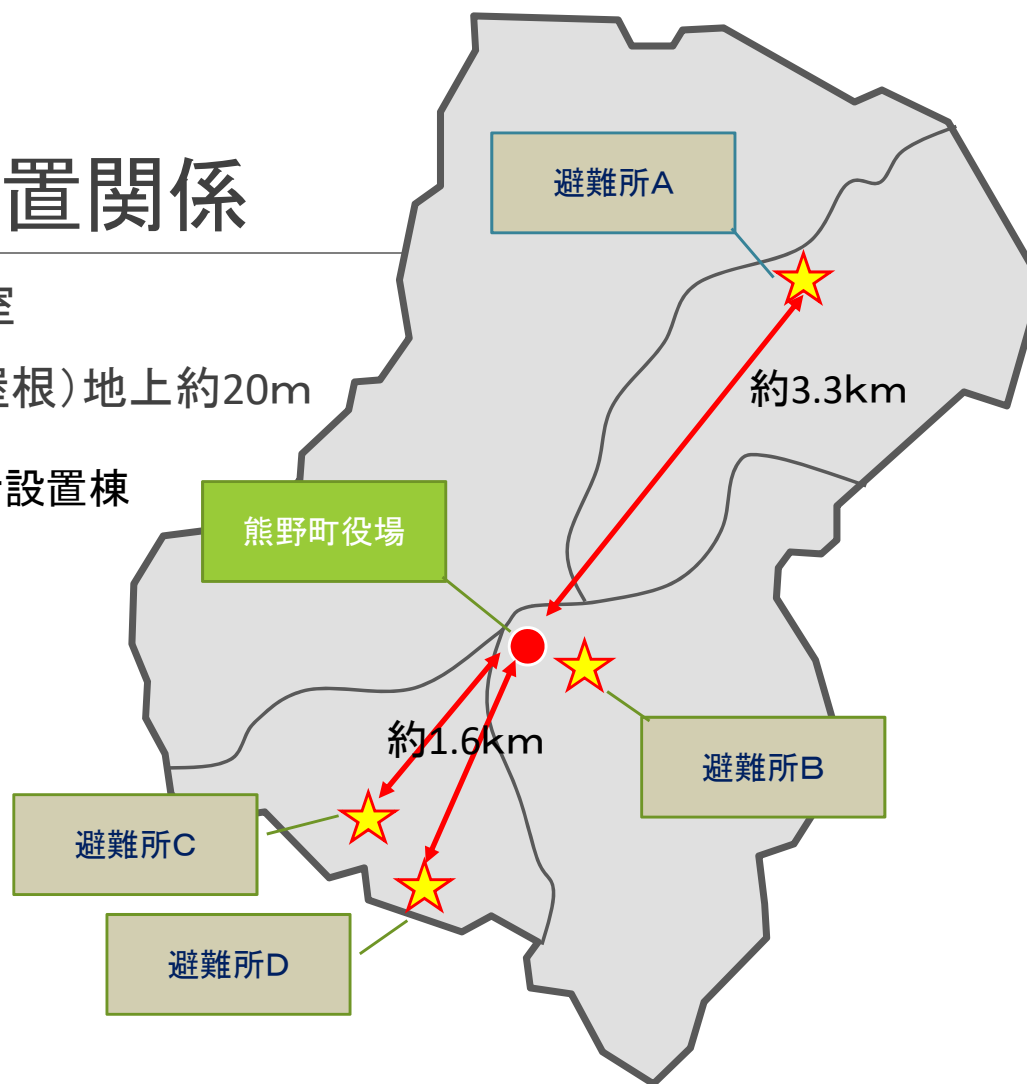


放送場所と避難所の位置関係

- 放送場所:熊野町役場 3階 305会議室
- アンテナ設置場所:熊野町役場屋上(屋根)地上約20m
- 出力:50W



アンテナ設置棟



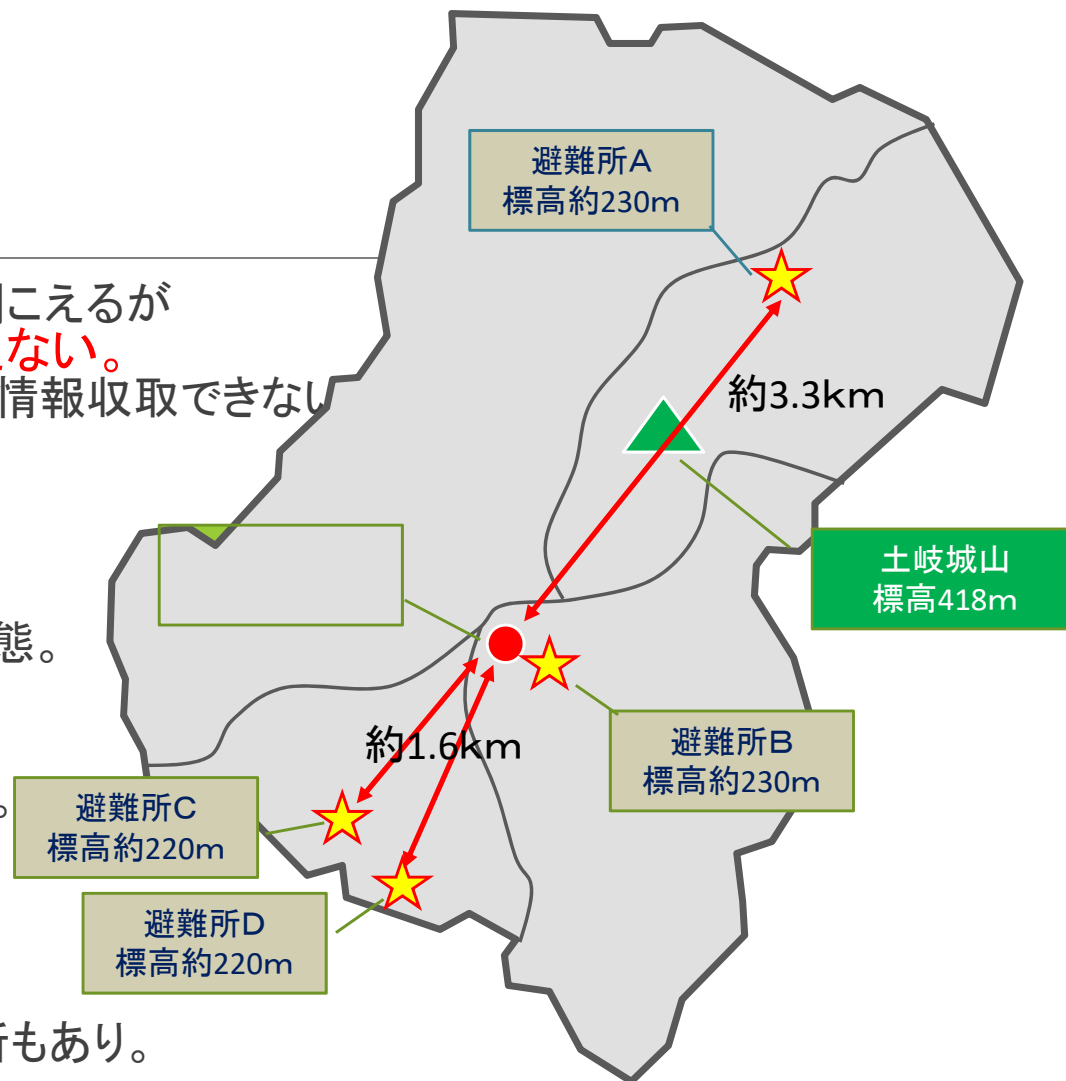
受信実態

- 避難所A 駐車場の車内(カーラジオ)では聞こえるが
屋内ではラジオが聞こえない。
→屋内では誰もラジオで情報収集できない



結果、テレビやスマホでの
情報収集が主体となった実態。

- 避難所B 距離も近いので屋内でも聞こえる。
- 避難所C 屋内でも聞こえるが雑音が入る。
- 避難所D 屋内でも聞こえるが雑音が入る。



★その他の町内でも、屋内は雑音交じりの場所もあり。

【位置係図(航空写真)】



臨時災害放送局運用上の課題

【受信者向けの課題】

- 避難所の内外、町内全域での電波受信をいかに良好にするか。
 - 一番情報入手したい・してほしい人に届ける必要性
 - 避難所以外の自宅などで災害復旧作業している人などに、良好な音質で「耳から正確な情報」を手に入れてもらうこと。
- ラジオ受信機の確保
 - 避難者が情報入手できるよう、避難所へのラジオの配置

【放送局の整備体制】

- 停電時の対応
 - 熊野町では放送機器を「緊急的」に設置したため、「通常コンセント」からの電源供給となった。役場にも自家発電機はあるが、瞬間的に立ち上がるものではないため、放送機器の設置の際にはUPSなどが必須。
- 放送体制の確立
 - 局を有効に運用できるよう、迅速な放送チームの編成と番組構成が必要。
 - 発信情報の収集・精査、読む技術、音楽、etc・・・

